

# 小長井町民謡



企画：長崎県 小長井町  
音楽制作：株式会社サウンドワークス

# 小長井町民謡



企 画・長崎県小長井町  
音楽制作・株サウンドワークス

十、九、八、七、六、五、四、三、二、一、

たんす 石 篩 女 子 作 さ 琉 壁 手

\* 棒 米 の 球 塗 ま  
\* 揚 の 守 揚 さ り

長持唄 歌 唄 謠 唄 歌 節 節 歌 歌

唄 歌 唄 謠 唄 歌 節 節 歌 歌

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

14

12

10

9

8

6

5

4

3

2

目次

# 一、手まり歌

こんこんここの腰（んは）さんな  
鼻かけやったかけやった  
どんどんどこまでかけやった  
あの山越ゆれば宿までこーゆる  
宿や町には酒屋がこーさる  
酒屋男は宗吉（そうきち）さーまよ  
だれんばをねらうか姐（あんね）  
さんねーらう  
あんねどこの者か糸岐のものよ  
糸岐一番だてしゃでこーざる  
だてにこぼれて花おびさせて  
おびにや短かしたすきにやなーがし  
しまりや薬師さんの腰の帯 腰の帯  
アガラーンセッセ

## 【解説】

昔のお正月には、振袖をつけたかわいい少女たちが、赤白のきれいな糸をかけた手づくりの鞠をつなぎながら、手鞠唄を合唱しかわるがわる遊んでいました。今ではこのような光景は、すっかりみられなくなりました。

# 二、壁塗歌

## 一、壁のほげたなら左官さんに頼め

またもほげたら また頼め 娘  
 ナンノー / ノーヤー  
 (はやし) ソリヤヤレ ソリヤヤレ  
 あすこんたいも破けとる  
 五月の田植えに はらまにやよかいどん  
 はらめば田植えの邪魔になる

**【解説】**  
 昔の壁は、竹でエツイをした土壁がほとんどでしたが、左官のこどいが壁土をこねて丸めて左官に差し出し、左官が上手な腰つきでこれを受け止めて壁を塗つていました。この左官の壁を塗る動作を面白く演じる「壁塗踊り」とともに、歌い継がれてきたのが「壁塗歌」です。

五月の田植えに はらまにやよかいどん  
 はらめば田植えの邪魔になる

二、歌は声から 雪駄は緒から  
 二人暮らし いとわせぬ 姉  
 男嫁うのは 女から 娘  
 (はやし) ソリヤヤレ ソリヤヤレ  
 あすこんたいも破けとる  
 こんたいも破けとる  
 五月の田植えに はらまにやよかいどん  
 はらめば田植えの邪魔になる

三、歌は声から 雪駄は緒から  
 男嫁うのは 女から 娘  
 (はやし) ソリヤヤレ ソリヤヤレ  
 あすこんたいも破けとる  
 こんたいも破けとる  
 唐いも焼酎棚の上ばん

# 壁塗歌 唱・中村三津夫

(二上り)  
音階子(日本)

歌詞 (ソリヤヤレソリヤヤレ)  
 「あすこんたいも破けとる ここんたいも破けとる  
 五月の田植えにはらまにやよかいどん  
 はらめば田植えの邪魔になる」

歌詞  
 こひこひ ここひんほきまんははながけつ日 おひやつ日 どんどんどこまで かけやつた  
 あのやまこゆればしづくまでこーざる しづくやまむには さがやが こーざる さかや まとこは  
 そうちかをまよ せりあはれらうか あんねさんねーらう あんねどこのもじか いときの ものよ  
 いたきいちばん だてしゃでこーざる だてにこぼれて まおびきーせて おびにやみじがし  
 たすきにやなーがし しまりやまつらのこしの おび こしのあび あが あせつせ

### 三、琉球節

一、琉球にこじやるなら わらじはいてこじやれ  
琉球にキナハイ 石原小石原  
(はやし)

シタリヤ ヨメヨメ シンにユタユタ  
シテガングン あセツセ

二、琉球と鹿児島と地絆きなれば  
潮がキナハイ 橋潮で橋しやかけぬ  
(はやし)

サッサ人力車にホロカケホロカケ  
トキヤレツツノバツバあセツセ

三、琉球と鹿児島と地絆きなれば  
会うでキナハイ酒もりして見たい  
(はやし)

サッサヨカトノ若つかたばかでもかんまん  
トキヤレツツノバツバあセツセ

四、琉球へ琉球へと草木もなびく  
琉球はキナハイ居よいか住よいか  
(はやし)

サッサお前の方からほれたじやないか  
トキヤレツツノバツバあセツセ

五、来いと言たとて行かれうか琉球へ  
琉球はキナハイ四十九里波の上  
(はやし)

サッサ此の子がおつては夫にさまたげ  
トキヤレツツノバツバあセツセ

### 四、さのさ節

一、花尽し コリヤ山茶花 桜か水仙花

寒に咲くのは梅の花

牡丹しゃくや百合の花

おもとのいうこと 南天菊の花

サノサ

二、とり尽し コリヤ末松やんなウナギとり  
梅づやんな魚とり  
鼻んたつかけえんさんなキツネとり  
打越のかんだゆうさんな  
ねウサギとり  
足角の山下さんな子とり小鰯とり

サノサ

### さのさ節 嘴・横 よう子

#### 〔解説〕

明治三十一年頃から大正時代にかけて流行した歌で、歌の終りに「さのさ」という囁子ことはがつくところからさのさ節と言われました。

#### 〔解説〕

もともとは他国から流れてきた歌ですが、琉球節は、小長井ではすいぶんと古くから唄われていました。

### 琉球節 嘴・中村三津夫

(本調子)  
3拍子

222 4301 99 99 99  
1 4八 2 4八 2 4八 2  
りきゅーにー

99 499 999 999 1 2924  
—ごじやる なーらー わらじ はいてー ごーじゅー れー り  
(一拍子多シ)

64 09 0 \* 022 0 0 0 2 2  
きゅうにー (キナハイ) いしー わー 6— こいー しわー  
(一拍子多シ)

966 4300 499 0 422 44  
ら (コラ) タリヤ ヨメヨメ ーーーーーーーーーーーーーー  
ガ (ア)セツセ

## 五、作米搗き歌



(三下り)  
気拍子(4本)

### 作米搗き歌

唄・中村三津夫

2222 2222 2 00 2 . 44 44 10 00  
 2 \* 2 \* 20 2 2222 2 024 2 0 0  
 アリヤー アー ちよつこんかつんないごめんばーつー  
 2 4 2 20 2 0 222 02+6 \* 2 0 00  
 けーば ————— あすは さまじょのでふねーごめ  
 2 - 2 \* \* \* 2222 2222 00 2 \*  
 よ—— ホイ (チョッコンカットン)

#### 〔解説〕

大正の末頃までは、自給自足の時代であり、各家々では「うす」と「きね」を備えて、米や麦を搗いていました。農閑期の晩は、地区的の家々をめぐっての米つきが青年男女の仕事でありましたが、遅くまでの夜なべもきついところか若者たちのレクレーションであり、男女交際の場でもありました。この時の労働歌が「作米搗き歌」です。

- 一、アーリヤー アー ちよつこんかつんない米んば搗けば  
 あすはさまじょの出船米よ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 アーリヤー アー 出船米とて 白い米搗くな  
 米の白けりや 滞留するよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン
- 二、アーリヤー アー あすはさまじょの出船米よ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 アーリヤー アー 握いて加勢なら 咬まで「加勢」  
 ご加勢ぶりどんが 見ゆることよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 (はやし)  
 ホラ白の底茶碗皿 ふせこさや「ざらん  
 持ちあげた杵なら 遠慮なしおとし込め  
 アラチヨイチヨイ
- 三、アーリヤー アー 姉は眉目よし 妹は氣よし  
 姉の眉目より 気にほれたよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 (はやし)  
 アーリヤー アー 虎は千里の 山さえ越せど  
 障子一重が ままならぬよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 アーリヤー アー 杵のあげよさ  
 好いたお方と ない米んば搗けば  
 チョッコンカットン チョッコンカットン
- 四、アーリヤー アー 九、アーリヤー アー  
 月にや百度も 二百度もよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 (はやし)  
 アーリヤー アー 八、アーリヤー アー  
 どうした縁かよ 姉女がみぞか  
 育てられたる 親よりもよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 アーリヤー アー 七、アーリヤー アー  
 日にや二度三度  
 足の軽きよ 地につかんよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 (はやし)  
 アーリヤー アー 六、アーリヤー アー  
 雪駄は緒から 雪駄は緒から  
 男きらうは 女からよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 (はやし)  
 今夜こん様女は明日の晚もこらせん  
 来たてちや見もせん 横目もふりやせん それでも来るなら  
 へっちゃんぼうきて はわきやらんかん  
 アラチヨイチヨイ

## 六、アーリヤー

アーリヤー 雪駄は緒から  
 男きらうは 女からよ ホイ  
 チョッコンカットン チョッコンカットン  
 (はやし)

来たてちや見もせん 横目もふりやせん それでも来るなら  
 へっちゃんぼうきて はわきやらんかん  
 今夜こん様女は明日の晚もこらせん  
 来たてちや見もせん 横目もふりやせん それでも来るなら  
 はわきやらんかん

## 六、子守歌（七ちよ二八ちよ二）

七ちよ二 八ちよ二蜂の巣  
蜂ちや山んなきや 蜂んばかけぎや  
巣んばかけすに 嫁ご見ぎや  
嫁ごの名はなんてつきゅうか  
べんつけ・かねつけ 花嫁ご  
嫁ごたちや観音みやあい

今日はスズメの道つくり  
何匹出てつくらるかあ

二 医出で作らつちゆ  
あとスズメももないわぬ  
先のスズメももないわぬ  
真中のスズメのいうことにや

わいたちやわいたちや 花もいしゅう  
花はなんの花もろうか  
あさこばなとゆうはなと

でんでん手箱にもりこんで  
石のつまだにえたいば

はまはまじょうからさがされた  
あがいぐちおじろでちやいけふんだ

いけはなんのいけ そのいけ  
うらのばつききん掘つていいなれ

二 三日待つときは掘つてくるだん  
二 三日まつとればうみかえる  
うみかえてつぶせばつぶしよか

オレロンオレロン オレロンヨ

### 【解説】

子守歌は、いとしい子供の眠りを願う母のやさしい心のこもったものですが、母親

## 七、女謡（あんば節）

### 一、祝 目出度の

苔松さまよ  
枝もな  
栄えて 葉も繁げる

二、これなこてすは  
福ようなこてす  
潮のな  
みつこと 金のわく

### 【解説】

あんば節は、女のお祝いの謡として受け  
繼がれています。歌詞を遊んだ家では、組内の主婦たちを呼  
んでごちそうをしますが、この時主婦たち  
がお祝いとしてこの謡をあげる習わしがあ  
り、現在でも女たちの寄り合いや懇親では  
さかんに唄われています。

### 二、とゞけとゞけと

### 三、未までとゞけ

### 木はな

### 鶴亀 五葉の松

は家事や労働に追われ、乳飲児を見や娘が  
世話する場合が多く家によつては子守を雇  
うこともあります。これらが唄うものが多かつ  
たようです。

## 子守歌　唄・嶺 よう子

ひつちよこはつちよーご ハチのーソ ハチセやまんじきゅー さんばかーけぎゅ  
すんばーかけぎーに よめごーみぎや よめごのなーはー ねんてつきゅうか

## 六、子守歌（七ちょ二八ちょ二）

七ちよこ 八ちよこ蜂の巣  
蜂ちや山んなきや 巣んばかけぎや  
巣んばかけすに 嫁ご見ぎや

べんつけ、かねつけ、花嫁ごたちや観音みやあい

何匹出てつくらるかあ  
あとスズメももないわ

先のスズメももないわぬ  
真中のスズメのいうことにや

わいたちやわいたちや 花もいしゆう  
花はなんの花もらおうか

でんでん手箱にもりこんで  
石のつまだにえたいば  
はまははまじょうからきがされた

あがいちおじろでちやいげふんだ  
いけはなんのいけ そんのいけ

二、三日持つとれば振つてくるだ  
う三日まつとすればうみかえる

オレロンオレロン オレロンヨ  
解説】

## 七、女謡（あんぱ節）

一ノ瀬　自由度の

初日出度の  
若松さまよ  
枝もな  
栄えて 葉も繁げる

二、これなごてすは  
福ようなごてす  
潤のな

女謡(あんば節) 唄・中村三津夫

八八  
(本調子)

A handwritten musical score for the Japanese folk song "Kokochi". The score consists of six staves of music, each with a different key signature and time signature. The lyrics are written in Romanized Japanese (Katakana and some Hiragana) below the notes. The notation includes various note heads (circles, squares, triangles) and rests, with some notes having vertical stems and others horizontal. The manuscript is written in black ink on white paper.

〔附錄〕

あんは結婚は、女のお預いの話として受け  
難がれています。  
嫁を迎えた家では、組内の主婦たちを呼  
んでごちそうをしますが、この時主婦たち  
がお祝いとしてこの譜をあげる習わしがあ  
り、現在でも女たちの寄り合いや婚礼では  
さかんに唄われています。

説文

がれています。  
嫁を迎えた家では  
でごちそうをしあ  
お祝いとしてこ  
・現在でも女たま  
かんに唄われて、

## 子守歌 唄・嶺 よう子

ひみつよはつちよーご　ハチのーグ　ハチセやまんじきゅー　すんばかーけざー  
すんばーけざーに　よめごーみぎゅ　よめごのなーはー　后んでつっかゅうか

は家事や労働に追われ、乳飲食を兄や姉が世話をする場合が多く、家によつては子守を雇うこともあります。これらが唄うのが多かつたようです。

## 六、子守歌（七ちょ二八ちょ二）

七ちよこ 八ちよこ蜂の巣  
蜂ちや山んなきや 巣んばかけぎや  
巣んばかけすに 嫁ご見ぎや

嫁ごたちや観音みやあい  
べんつけ、かねつけ、花

何匹出てつくらるかあ  
あとスズメももないわ

先のスズメももないわぬ  
真中のスズメのいうことにや

わいたちやわいたちや 花もいしゆう  
花はなんの花もらおうか

でんでん手箱にもりこんで  
石のつまだにえたいば  
はまははまじょうからきがされた

あがいぐちおじろでちやいげふんだ  
いけはなんのいけ そんのいけ

二、三日持つとれば振つてくるだ  
う、三日まつとすればうみかえる  
うみかえてのなせばのなせば

オレロンオレロン オレロンヨ  
解説】

七、女謡（あんぱ節）

一ノ瀬　自由度の

初日出度の  
若松さまよ  
枝もな  
栄えて 葉も繁げる

二、これなごてすは  
福ようなごてす  
潤のな

女謡(あんば節) 唄・中村三津夫

七八  
(本調子)

A handwritten musical score for 'Kokochi' on four staves. The first staff uses a soprano C-clef, the second an alto F-clef, the third a bass G-clef, and the fourth a tenor C-clef. The music consists of a mix of Western-style note heads and Japanese traditional notation, including vertical strokes and dots. The lyrics are written below each staff in both Japanese and English. The score includes dynamic markings like 'p' (piano) and 'f' (forte), and performance instructions such as 'riten.' (ritenzo) and 'tempo'.

〔附錄〕

あんは結婚は、女のお預いの話として受け  
難がれています。  
嫁を迎えた家では、組内の主婦たちを呼  
んでごちそうをしますが、この時主婦たち  
がお祝いとしてこの譜をあげる習わしがあ  
り、現在でも女たちの寄り合いや婚礼では  
さかんに唄われています。

説文

がれています。  
嫁を迎えた家では  
でごちそうをしあ  
お祝いとしてこ  
・現在でも女たま  
かんに唄われて、

## 子守歌 唄・嶺 よう子

ひみつよはつちよーご　ハチのーグ　ハチセやまんじきゅー　すんばかーけざー  
すんばーけざーに　よめごーみぎゅ　よめごのなーはー　后んでつっかゅうか

は家事や労働に追われ、乳飲食を兄や姉が世話をする場合が多く、家によつては子守を雇うこともあり、これらが唄うのが多かつたようです。

# 十、たんす長持唄

(旅立ち)

一、ハアー今日はナーヨー日も良し  
天気も良しよナ  
ハアー結びナーヨー合わせて  
ハアー縁となるよナ

二、ハアーそろたナーヨーそろたよ  
くもすけさんがそろたよ  
ハアー秋のナーヨー出袖よりや  
ハアーなよくそろたよ

三、ハアーわたしやナーヨーくもすけ  
はんてんそだちよ  
ハアー長いナーヨー着物にや  
ハアー縁がおそいよ

四、ハアーわたしやナーヨー行きます  
ご両親様よナ  
ハアー永くナーヨーお世話に  
ハアーなりましたよナ

五、ハアーこれはどナーヨーしこんで  
あの出すからにやよ  
ハアー二度とナーヨーふたたび  
ハアー帰るじやないぞエー

六、ハアー舟はナーヨー帆まかせ  
帆は風まかせよ

四、ハアー所望とナーヨーあるなら  
二斗樽すえてよナ  
ハアー飲んだナーヨー気分で  
ハアー唄いますよナ

五、ハアー所望だナーヨー所望だと  
呼び止められてよ子  
ハアー唄のナーヨー字しらず  
ハアー文字しらずよナ

六、ハアーさあさナーヨーお立だよ  
お名残り惜しやナ  
ハアー今度ナーヨー来る時や  
ハアー辞つれてよナ

七、ハアー見えたナーヨー見えたよ  
ご城下が見えたよ  
ハアーおろしナーヨーください  
ハアーーの枝をよー

(受取り)

一、ハアー今日はナーヨー遠方から  
ご苦労さんでござるよ  
ハアーわたしやナーヨー居ながら  
ハアー持ち受けましたナー

二、ハアー潮はナーヨー満潮  
船走り込むよナ  
ハアータンスナーヨー長持ち  
ハアーにない込むよナ

ハアー沖のナーヨーあらしじや  
ハアーまいもどるよナ  
ハアー蝶よナーヨー花よと  
育てた娘でもよナ  
ハアー今じゃナーヨー他人の

ハアー手にわたるよナ  
近所の方よナ  
ハアー後のナーヨーふた親  
ハアーたのみますよナ

八、(途中) ハアーここはナーヨー小長井の

関所でござるよ  
ハアー唄をナーヨー唄わにや  
ハアー通しやせぬぞエー

二、ハアー関所ナーヨー一番所は  
昔のことよナ  
ハアー今はナーヨー関所は  
ハアーはやりやせぬぞえー

三、ハアー所望ナーヨー所望なら  
三斗樽すえてナ  
ハアー唄をナーヨー唄わにや  
ハアー通しやせぬぞエー

二、ハアータンスナーヨー長持ちや  
おさまつなれどナ  
ハアー中のナーヨー品物は  
ハアーぼろばかりよナ

四、ハアータンスナーヨー衣装は  
七竿八竿ナ  
ハアー中のナーヨーこ  
ハアーあやにしきよナ

五、ハアーこなたナーヨーお家は  
きれいなやかたよナ  
ハアー庭にやナーヨーせんすい  
ハアー築山までもよナ

六、ハアータンスナーヨー長持ち  
受け取るからはナ  
ハアー二度とナーヨー再び  
ハアーもどしやせぬよナ

七、ハアー槍はナーヨーなげしに  
刀はさやによナ  
ハアータンスナーヨー長持ち  
ハアーなんどにおきむよナ

八、ハアー祝いナーヨー日出度の  
若松様よナ  
ハアー枝ちナーヨー榮えて  
ハアー葉ち繁るよナ

(本調子)

3本(三味トレモロ)尺八

たんす長持歌

唄・中村三津夫

0-2-4 0 2 4 2 4 6 4 2 6 - 0 4 2 - | 4 0 2 0 4  
ハ アー きょう は — — ナア — — ア — ヨ — オ — ひ も ょ —  
2 - | 2 4 4 4 2 0 2 4 6 4 2 4 - 2 - |  
し — てん き り — よ — し — ょ — ナ —  
0-2-4 0 2 4 2 6 4 2 6 - 0 4 2 - | 4 4 0  
ハ アー む す び — — ナ — — ア — ヨ — オ あ わ セ  
2 0 4 2 0 4 - | 4 - 2 4 2 0 2 4 6 4 2 - |  
(エ) — — ハ — ア え ん 一 と な る よ ナ —

太 鳴 尺 八 三 音 長 嵐 県 小 長 井 町  
鼓 · · 箏 · 味 線 · 楽 制 作 · 画 · 嵐 県 小 長 井 町  
· 鉦 物 笛 · 中 村 三 津 夫 / 高 堂 淑 惠  
· 中 高 林 敏 子 樹 州 佑 喜 雄



〔解説〕  
江戸時代からはじめた農村の婚礼の唄で、花嫁のダンスや長持を、婿方の家にい  
ない連ぶ際に唄われました。歌詞については、即興で面白く作られる場合もあつたそうですが、旅立ち・道中・受取りとそれぞれの場面での唄があり、儀式としても唄われました。